

平成 26 年 11 月 19 日

著作物等の適切な保護と利用・流通に関する小委員会宛て意見書

株式会社エム・データ 取締役 小口日出彦

○最初にエム・データについて

エム・データは、テレビ放送のメタデータを生成・販売している企業です。テレビ放送メタデータとは、「いつ」「どの局のどんな番組で」「誰が（どんな話題が、どの企業が、商品が、お店が）」「どのくらいの時間」「どのように放送されたのか」――といった情報です。私どものメタデータの情報の形式はすべてテキストデータです。映像・音声データは一切ありません。メタデータの生成のイメージは、テレビを見ながら詳しいメモを取っている――といったものです。生成されたメタデータはテキストの集積としてデータベース化されます。その用途は多岐にわたりますが、私どもは「データの販売」を主たる収入源としております。一部、調査サービスやデータ検索サービスなどもメニューに入れておりますが、販売先が主体となった協業によるものです。

詳しくは、私どものホームページ (<http://mdata.tv/>) をご参照ください。

○メタデータの役割――情報検索の基盤をなす重要要素

私どもが生成しているテレビメタデータは、デジタル時代を象徴するサービス（ないしはサービスが内包する機能）である「情報検索」の基盤をなす重要な要素です。どのような優れた検索技術を採用したとしても「手がかり」がなければ検索は成立しません。その「手がかり」こそがメタデータなのです。

ネット上をどれほど精緻に探っても、テレビ放送の情報は断片しか拾うことができません。確かにネット上にはテレビ番組表も掲載されておりますし、放送局自身が番組内容等の情報を逐次発信しております。しかしながら、例えば「夜 9 時、女性歌手、昭和の演歌」といったキーワードから元の情報を探し出すのはなかなか困難です。

このとき、検索の対象としてテレビメタデータがあれば、たちどころに答えを得ることができます。これが、テレビメタデータの役割です。近い将来にあっては、テキストだけでなく、映像の断片や音の断片なども検索の手がかりとなるでしょうが、メタデータの役割の本質は変わりません。

○メタデータと著作権

例えば、作家と出版社によって制作され書店に並んでいる書籍を概観すると「タイトルはナニナニ、作者はダレダレ、発売時期はYY年MM月、判型は変形A5、ハードカバー、総ページ数は何ページ、ジャンルはドキュメンタリ、舞台は北極、シロクマやオーロラのカラー写真入り、価格はいくら…」といった情報が得られます。これは書籍についてのメタデータです。よく知られているように、このメタデータの中核的な部分は「書誌データ」

として図書館や書店での本の整理に用いられております。美術作品や映画、演劇、音楽等からもすべて同様のメタデータを得ることができ、同様に活用されています。

私どもはテレビメタデータもこれらと同じ性質のものと考えています。もちろん、事業活動を行うにあたっては、テレビ放送の中核をなす放送局や制作会社、広告主や広告代理店、俳優、歌手、タレントおよびそれらの関係者に十二分の相談や配慮を欠かさないことが大前提です。

私どもはメタデータの採取処理のために、一時的に放送を蓄積視聴することはありますが、永続的に保管したり、メタデータの採取目的以外で視聴することはありません。こうした作業と著作権の関係については平成21年度の著作権法改正によって担保されているところと理解しております。

○新種のサービスに関する意見とメタデータの利活用分野

以上述べました通り、私どもの現在の事業範囲は著作権法の改正による影響が現段階で想定できる材料が乏しく、その内容、関連産業へのインパクトを勘案しての判断が必要と考えます。加えて、私どもはメディア界においても、デジタル界においても、さまざまな意味で中立的な立場であり続けたいと考えています。

以上